案１

提　案　書

プロジェクト名：かつらぎ町の良さをホームページでアピール！

１．ねらい・目的

　パソコンやスマートフォンの普及に伴い、子どもから年配の方までインターネットを使うことが当たり前になっている。そこで、かつらぎ町のホームページで今以上にかつらぎ町の良い所をわかりやすく発信できないか。またそれが、観光客や移住者のアップに繋がるのではないか。

２．実施事項

①既存のトップページの前にもう一枚ページを作る。

②①にはかつらぎ町の写真(四季折々の風景・名所など)を載せる。

③定期的に写真を変更する。(飽きさせない、より多くのかつらぎ町を知ってもらう。)

３．詳細内容

　現在のホームページの内容はそのままで、今までのトップページの前にもう１ページ作り、そこにかつらぎ町の写真を載せる。

　写真については、役場の写真部などにお願いするか、一般募集する。

４．コスト・予算等

・写真代など。

５．デメリット

・行政のページに飛ぶのにひと手間かかる。

６．スケジュール

【添付書類】

・・

・

案２

提　案　書

プロジェクト名：町民マラソン開催について

１．ねらい・目的

・スポーツ参加を通じて観光客の増加・交流人口の増加を目指す

２．実施事項

・かつらぎ町主催での町民マラソンの開催（ハーフマラソンやフルマラソンを主とする）

３．詳細内容

現在、全国各地で市民マラソンやリレーマラソンの開催が多くみられます。規模の大きなものとなると、参加者は何千人ともなり、知名度も全国的に高いものとなっております。伊都地方においても、「九度山町」や「橋本市」などで市民マラソンの開催をここ数年で行っており、近隣市町村のみならず、県外からの参加者もいるという話しを耳にしており、現在、道路整備や計画が進んでいるかつらぎ町でもこういった計画が出来るのではないかと考えました。

そこで、かつらぎ町においても市民マラソンを開催し、町外や県外からも参加者を出し、まずは町への集客・交流人口の増加に結び付けていきたいと考えます。

・大会（案）

【受付・待機会場】かつらぎ町　総合文化会館

【主催】〇〇マラソン実行委員会

【種目・参加料】

種目	参加料	希望参加者
3km(ファミリーコース)	1,000 円	小学生や家族など
10km	2,000 円	中学生、高校生
ハーフマラソン	3,000 円	一般
フルマラソン	4,000 円	一般

大会規模としましては、最大目安として「紀州口熊野マラソン」、「天空マラソン」を想像しており、「フルマラソン　ハーフマラソンとも上限 1,000～1,500 人」の開催を目指したいと考えております。

この人数を目標に設定した理由としましては、大会規模としては大きい部類ではなく、人数管理の面では他の大会よりも管理がしやすいと思い、この規模を目指そうと考えました。

また、コースの面に関しましては地元や町外の小・中学生などにも参加して頂きたいと考え、家族で走れる 3km コース(ファミリーコース)やクラブ活動の一環としても走れる 10km の作成を今回考えました。

・参加賞や協賛企業での出店などでかつらぎ町を PR

各大会によって、大会限定の T シャツやスポーツタオルを参加賞として配布しており、それを違う大会で使用して走るランナーも目につきます。それによって、大会の存在を知る方もおられ、次の大会への周知や広告にもつながると考えます。今回、開催するに当たり、そういった参加賞の作成が町の PR にもつながると考えます。

また、企業の出店なども各大会において、数多くみられます。これにおいても、町内業者の物品の販売や特産物の販促をすることもでき、町外・県外から来られる方に、かつらぎ町のことをもっと知っていただけるきっかけにもつながると考えます。

【参考】近隣市町村の参加者

開催地	コースと参加人数				
橋本	2km	3km	5km	ハーフ	計 約 2,000 人
九度山	1km 79 人	2km 196 人	3km 92 人	ハーフ 242 人	計 609 人
岩出	2km 1,037 人	3km 536 人	5km 404 人	15km 700 人	計 2,677 人
天空	3km 712 人	10km 768 人	ハーフ 1,500 人		計 2,980 人
口熊野	2km 290 人	3km 329 人	ハーフ 2,294 人	フル 2,408 人	計 5,321 人

４．コスト・予算等

・運営費(タイム計測機や機材などの設備費)

・参加賞や当日の準備費用、広告費用など

５．デメリット

当日のスタッフ参加(ボランティアの参加),

道路の通行規制、コース設定、駐車場など

６．スケジュール

【添付書類】

・

案３

提　案　書

プロジェクト名：総合選果場見学ツアー

１．ねらい・目的

かつらぎ町への観光客の増加、町内企業の収益アップ

２．実施事項

・総合選果場のほか町内企業の工場見学ツアーの実施

・商品のプレゼント、即売会

３．詳細内容

既に総合選果場では見学ツアーと即売会を行っているそうなのですが、今後鍋谷峠のトンネルや京奈和自動車道の開通で交通の便が良くなる中で、もっと町外から人を呼べる魅力があるのではというのが私の提案です。

様々な企業・工場の裏側に迫るテレビ番組を見て、テレビ番組として成立している以上ある一定数の需要は絶対にあるはずだと思ったのがきっかけです。

総合選果場だけに限らず町内には溝端印刷や築野食品をはじめとした、たくさんの企業の工場があるため、それらを回るツアーが出来れば、大企業の一つの工場に見学に行くよりも、幅広い層の興味を引くことが出来るのではと思います。

また、団体客への集客効果もあり、社会科見学の一環として学校や子ども会の遠足で足を運んでもらえることも期待出来ると思います。

ただ見て回るだけでは二の足を踏む方も多いかと予想されるので、魅力の上乗せとして、工場で扱っている商品をプレゼントする、もしくは直売を生かして安い価格で即売会が出来れば町内の企業のＰＲ、収益アップにも繋がります。

企業からの直売にはもう一つのメリットがあり、観光基盤がなく、せっかく観光客が訪れてもお金を落としてもらえる場所・仕組みがないかつらぎ町の弱い点を補う効果も発揮します。

また、町内の企業にもっと元気になってもらうことで雇用の増加につながり、ひいてはかつらぎ町の抱える課題の一つである人口流出の歯止めにも一役買うのではと期待しています。

企業の協力なくしては実現しない提案ではありますが、厳しい時代だからこそ官民や企業間の壁を超え、協力し合って町づくりを進めていけたらと思います。

４．コスト・予算等 ・見学用の設備投資等の支援。 ・企業の受け入れ態勢によって人件費等。	５．デメリット ・企業の協力なくして実現不可。 ・土日祝は工場が止まっている。 ・役場・商工会等がマネジメント体制を整える必要がある。
６．スケジュール	

【添付書類】
・
・
・

案４

提　案　書

プロジェクト名：花園リレーマラソン

１．ねらい・目的

花園地区の地域活性イベントの１つとしてリレーマラソン大会を開催し、花園ふるさとセンターや花園守口ふるさと村の集客力アップに繋げる。ビギナーランナーでも負担が少なく、ゴール時にはみんなで感動を分かち合えます。

２．実施事項

・1 周約 1 ㎞のコースを襷リレーで 42.195 ㎞を完走してもらいます。

・開催時期は夏休みや GW を避けた週末に行う。また、3 月は各地でマラソン大会が開催されているので、4 月・5 月・6 月・9 月・10 月・11 月のいずれかの月で開催したい。

３．詳細内容

・1 チームは 4 名以上 10 名未満でチーム編成をします。

・制限時間は 4 時間で、1 周ごとの交代や 2 周 3 週続けて走ってからの交代も可能です。

会場第１候補　花園中学校

４年前に閉校となった花園中学校の校内をリレーマラソンする。校舎周辺やグラウンドをコースとして走る。若干コースが短いので周回数が多くなるが、コンパクトな会場設営が可能。

会場第２候補　金剛緑地グラウンド

金剛緑地キャンプ場の川向にあるグラウンドを中心としたマラソンコース。グラウンドとテニスコートなどを使ったコースレイアウトとなるが、場合によっては『吊り橋』を渡るコースも設定可能。金剛の滝がそばにあり、ロケーションは最高である。

４．コスト・予算等

・約 2,500,000 円

イベント会社((有)フィールドブレイン)に企画・運営の相談をしたところ、最低限上記の予算が必要との事です。但し、その中にはイベント会社運営費用も含まれています。

・後日入ってくる大会参加料(収入)は約 1,000,000 円見込まれる。

＊予算が嵩んでいるので、なるべく主催者側で用意できるのもは主催者が用意したい。また、協賛・協力スポンサーを集める努力が必要。

５．デメリット

どちらの会場も、駐車場の問題有り。周辺のキャンプ場などに臨時駐車場を設け、シャトルバス運行をしなければいけない。

６．当日のタイムスケジュール

8:00～受付　　9:00　開会式　　9:30　スタート（制限時間 4 時間）　　12:30　表彰式

案５

提　案　書

プロジェクト名：

花園地域に大人向けアスレチック施設を誘致

１．ねらい・目的

花園ふるさとセンターの改築工事が平成２６年度から始まりますが、宿泊施設が新しくなっただけでは観光客を呼び込むことは難しいと思います。そこで、花園の大自然の中で、大人が山遊びを楽しむ大人向けのアスレチック施設“フォレスト・アドベンチャー”の誘致します。

新しいふるさとセンターや他施設との相乗効果で花園地域への観光客の増加を見込むことができます。

２．実施事項

花園地域に大人向けアスレチック施設フォレスト・アドベンチャーを誘致する。

（大人向けと書いていますが、もちろん子どもも楽しめる施設です。）

【メリット】

① 放置された森林を活用する【森林再生】

② 観光客を呼ぶことになる【地域振興】

③ 既存施設との【相乗効果】

３．詳細内容

フランス発の“冒険の森”　フォレスト・アドベンチャー

1997 年にフランス・アヌシー郊外で ALTUS 社がはじめた森のレジャー施設の名前です。当初はフランスとスイスの企業研修用に作った施設でしたが、評判がよかったため一般に開放するようになりました。その後、フランス国内で人気が広がり現在ではこの種のレジャー施設は 200 以上あるといわれています。

このアスレチックパークの最大の特徴は、自然の立ち木をそのまま利用してコースにすることです。木の上に作られたプラットホームと呼ばれる足場に登り、そこから別の木へ空中を移動していきます。標準的なコースで 35～40 のアクティビティがあり、所要時間は個人差がありますが、2～3 時間で楽しむことができます。

施設の安全性については、ALTUS 社が持つ施設基準に準じた設計となり、安全基準と日常のオペレーション水準もルール化されているため、ALTUS 社の施設では過去に重大な事故は起きていないとのことです。

有限会社パシフィックネットワークが運営するフォレスト･アドベンチャーは関東を中心に日本各地で 13 施設があります。関西でも、兵庫県朝来市と奈良県山添村に同施設が設置され

・地域おこし協力隊の制度を活用し、定住支援コーディネーターとして雇用し、上記①～④について業務を担当します。

　地域おこし協力隊は、隊員自身がＩターン者であるため、移住希望者の立場に立って活動できるという強みがあります。また、活動期間終了後の定住率が高いため、ある程度の人数を雇用することで、地域の活性化だけではなく、定住人口の増加も期待できます。

　地域おこし協力隊の活動にかかる費用については、総務省による財政支援（特別交付税）が受けられるため、理論上、何人雇用しても町の持ち出しはほとんどありません（全国には 10 名を超える市町村もあります)。

４．　　コスト・予算等	５．デメリット
・②の施設改修費	・①について、地元不動産会社との兼ね合い

６．スケジュール

【添付書類】

・

・

・